

## リモコンヒットの感触

フェリーに乗り込むと、甲子園球場が映っていた。

高校野球が好きだ。妻も最近興味を持ち、ラジオ中継で熱心に試合を追っている。実はわが家にはテレビがない。数年前に壊れて以来、必要ないと思って買っていないのだ。だが、毎年夏休みに乗る九州行きの夜行フェリーには、共用スペースに大きなテレビがある。

二人で席を確保し、大画面でさっそく観戦。夕方の試合はナイターになった。

目立ったことはしたくない。でも、お互い気を使うあまり、みんなで興味のない番組を鑑賞している状態かもしれない。とは思うものの腰は上がらない。こういう運命なのだ。自転車競技を見るいい機会かもしれない。

「誰も見てへんやん」

戻って来た妻が今度は一直線にテレビの前に進み、パッとチャンネルを変えた。さすが、と思ったら、画面にはまたしてもニュース。おいおい、なんで替えるんだよ、という周りの視線を勝手に感じながら、アナウンサーの顔を見つめること5分。やっと野球に替わった。

試合は終盤、強豪が負けるかも、という面白い展開。ところが今度は

「高校野球中継はこのあとEテレでお伝えします」

画面がスタジオのアナウンサーに切り替わった。20人ほどが無言でその画面を見つめている。野球中継に戻したい。テレビの脇にはリモコンが見える。でも、みんなニュースを見たいのかもしれない。なぜ、よりよってこのタイミングなのだNHK、と恨みたくなるが仕方ないか……。妻が立ち上がった。強引にチャンネルを変えるのか、と緊張が走る。すると、テレビ正面付近のおじさ

画面がカクカクと乱れ始める。電波が悪いのだ。ついに何も映らなくなった。忘れていたが海の上にいるのである。みんな、なす術もなく真っ黒な画面を見つめている……。

気がつく、腰を上げていた。視線を感じながらテレビの前に進み出て、リモコンをつかみ、BSボタンをぐっと押しこむ。と、鮮やかな緑が目飛び込んできた。甲子園の芝生がカクテル光線を受けて美しく輝いている。

やった。ついに自らの意思でチャンネルを替えたのである。最終回の攻防に船内の人々も集まってきた。逆転ホームラン、とは言わないまでも、初ヒット一本出たような気分がギャラリーを見渡したのだった。

んに声をかけた。

「野球に変えていいですかね？」

「あー、私はいいですよ」

「Eテレって何チャンネルかわかります？」

と、さらに別の人も巻き込み、何となく雰囲気的に合意を得て、チャンネル替えに成功した。持つべきものは妻である。

帰りも同じフェリー。この日は優勝候補が登場する。楽しみにして乗り込むと、テレビ画面には自転車をこぐ男たち。オリンピックだ。しかし、比較的マイナーな競技である。高校野球の方が注目度は高いのではないか。というか野球見たい、と思うが、チャンネルを替える勇氣は出ない。頼みの妻もキャビンにいる。

